

## 第11回北九州市まち・ひと・しごと創生推進協議会での主な意見

### 総合戦略全体に関すること

- ・全国各地で人口減少への対応が迫られる中、経営者や労働者、学生、高齢者等、それぞれが問題意識を持ち、オール北九州として総合力を発揮することが必要。
- ・できていないところや悪いところを顕在化して、集中的に改善した方がいいのではないか。
- ・日本全体が人口減少になっていく中で、魅力あるまちをつくっていくためには「質の高さ」にシフトチェンジすることが大事。
- ・KPIは極力コンパクトにした方がいいのではないかと。具体的な施策については、取組を進めていく中で、より効果があるものに柔軟に変えていった方が、最終的な目標達成に効果的ではないかと。

### I 北九州市に魅力あるしごとをつくり、安心して働けるようにする

- ・企業間競争が激化している中において、企業として労働生産性の向上は課題である。こうした中で、地域人材を増やしていくためには、事業拡大や新規事業の開発、企業誘致等の取組が重要。
- ・産業構造が変化している背景には、デジタル社会がある。生産性を向上させるためには、IoTの活用が必要。中小企業は日本企業の活力の源泉なので、バックアップしていく必要があるのではないかと。
- ・製造業において、国際競争力を高めていくためには、IoTやAIの活用により生産性を高めることが必要。
- ・人口が減っていく中でも、生産性を上げることでより給与上げることができるような企業が増えれば人が集まってくるのではないかと。
- ・北九州は物価が安いというイメージがあるが、物の価値自体を上げる努力もした方がいいのではないかと。
- ・外国人労働者増加に伴い、受入企業及び管理団体への監督強化や相談窓口の設置など、国・県・市で徹底した取組を進めてほしい。
- ・留学生が日本に定住したいと思うようにするには、国全体の経済力を上げて、総合的に取組を進める必要がある。
- ・留学生は着実に増えている。留学生が住みやすい住居環境に関して何か取組があればいいと思う。

- ・留学生がなぜ北九州市外で就職するのか、その原因を調べ、それに合わせた対策が必要。
- ・人口減少を食い止めるには、学生の市内企業への就職促進が大事。企業の配慮等が足りずにやむを得ず市外に就職するということができるだけないように、企業と学生のマッチングに力を入れて取り組んでほしい。
- ・市内企業へのインターンシップ等で体験を積み重ねていくことが市内企業就職につながるのではないかな。
- ・これまでの取組により、着実に女子学生の地元での就職率は上がっている。女性が結婚や子育てで一旦離職した後の再就職支援（正規雇用）をさらに進めてほしい。
- ・人手不足の為、売り手市場になっており、市内出身者の外部流出はここ数年増えている。学生が地元企業を知らないのが原因だと言っているが、地場の中小企業に魅力が少ないのではないかな。これらの企業では後継者難も問題になっており、中小企業同志のM&Aを進め易い環境もあるので、行政の後押しでもっと 魅力のある企業づくりを進めるべき。
- ・事業承継やM&A等の取組を進めることが雇用全体を守ることににつながるのではないかな。
- ・人手不足が顕著になってきている中では、事業承継やM&Aの取組は地元就職増加につながるのではないかな。
- ・ビルのフロアをオフィスとして提供するなどの働きかけがあればIT企業は増えるのではないかな。

## II 北九州市への新しいひとの流れをつくる

- ・JR小倉駅の新幹線口の1日の乗客人数は13年間で増加している。一方で、在来線の1日の乗客人数は減少している。この原因を考えることが、駅前のにぎわいづくりにつながってくるのではないかな。そのためには、JR小倉駅の利用者を増やす施策を打ち出していくことが必要ではないかな。
- ・留学生を地域等で温かく見守ることが必要。
- ・インバウンドの観点から、飲食店での多言語メニューの対応等の取組を進めてもらいたい。
- ・関係人口を増やすためには、北九州市に関心を持ってもらえるようなネットワークづくりやまちのブランディングが大事。

### Ⅲ 女性の活躍を推進し、若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

- ・安心して子育てができる地域づくりは大事。保護者が子どもにかかる時間も少なくなっているので、地域で支え合うことが大事。

### Ⅳ 時代に合った魅力的な住みよいまちをつくる

- ・観光やサービス業などに実践的に取り組み、第三次産業を伸ばしている国が増えている。IR事業者から本市での事業計画案が示されており、実現すれば、人口減少・空港問題・財政健全化・まちのにぎわいといった市の課題解決につながるのではないかと。市が主導して、できるだけ正確な情報に基づいた勉強会の開催や、市民経済界を巻き込んだ検討委員会を立ち上げて頂きたい。IR事業者からも直接話を聞きたい。
- ・北九州が住みよいまちになってきている中、IRにはマイナス面もあり、首をかしげる問題だと感じる。
- ・中村座などのイベントを開催することが、まちが元気になる特効薬である。イベントを1回で終わらせるのではなく、継続して開催してもらいたい。
- ・北九州市が輩出している著名人について、もっとPRしてもいいのではないかと。いろいろなところで活躍している方を紹介できれば、市民のシビックプライドの醸成につながるのではないかと。
- ・北九州市は、住みやすく魅力のあるまちであると感じているが、全国的にはいまだ昔のイメージが払拭されておらず、十分にその素晴らしさがアピールできていないことが残念。今後、どのようにまちの魅力を発信していくのか、どのようにブランディングしていくのか、イメージ戦略をもって取り組むことが大事であり、そうした取組が人口流動にもつながるのではないかと考える。
- ・若者が集まるようなイベント開催やイベント会場を設けることがまちのにぎわいにつながるのではないかと。
- ・若者の投票率が非常に低い。若者がまちづくりに参画できるようなまちづくりを進めることも大事。